

<div>どんなことも、自分の遊びに！</div> <div>花組：中原</div>	<div>成長したよ！</div> <div>風組：水口</div>	<div>みんなで楽しむために</div> <div>星組：井上</div>
<p>実習生と過ごしたり、中学生が遊びに来てくれたり、運動会で風組さんや星組さんの競技を見たりと、いろいろな人との関わり増えた2学期。日頃、の遊びの中でも、星組さんがシソ屋さんや水族館に招待してくれたり、風組さんがプリンセスのダンスが見られるショーやウサギが登場する物語のショーに招待してくれたりする機会が多くなりました。「ショー（またはお店屋さん）があるから来てください！」と誘われると、「行く！」と、今までしていた遊びを中断して、喜んでついて行く花組さん。ショーやお店屋さんを堪能して「飴もらえた！」「面白かった」と、大満足で花組に戻ってくると、「ショーがあるから、先生見に来て！」「お店屋さんするから机出してほしい」と、風組さん星組さんと同じようにやってみたくなるところが花組さんの可愛いところです。飴やアイス、ジュースやバッタなど自分がつくったものをなんでも商品にして、お店屋さんの机に並べます。「いらっしゃいませ！」とお客さんを呼びこんだり「何味がいいですか」と注文を取ったりするお店屋さんでの姿や、「お客さんは、こちらに座ってください」「今からショーが始まります」など会場づくりや進行まで自分たちでやるショーでの姿は、風組さんや星組さんにしてもらったことと同じやり方です。こうして遊びや園の文化が引き継がれていくのだなと感じました。</p> <p>また別の場面では、A 児を先頭に 5、6 人が一列に並んでいるかわいらしい姿。「子どもたちだけで、どんな楽しいことをしているのだろう♪」と思いこっそり近づいてみると、A 児が「地震です！地震です！危険ですから非難します」と言うと、みんなが一列に並んで A 児の誘導にそって避難する“避難訓練ごっこ”の真っ最中でした。「先生も危険です。並んでください」と言われた保育者も列の最後尾に並んで一緒に避難します。避難した先々で、次から次に地震が起こるので、いろいろな場所に避難し続ける“エンドレス避難訓練ごっこ”がなんとも微笑ましい様子の花組さんでした。日常の生活の中で経験する全てのことが、子どもたちの手にかかれば何でも楽しい遊びに変身するのですね。子どもたちって本当に素晴らしいですね。</p>   	<p>夏休み明けから始まった2学期。久しぶりに風組の友達と会えることや一緒に遊ぶことを楽しみに登園する姿が多くみられました。中には不安そうなお子さんもいましたが、友達から遊びに誘ってもらって安心してスタートをきることができていました。保護者の方にも保育参加の際に実感していただいたように、友達の思いを大切にしようとする姿や自分の思いを伝えようとする姿、友達と自分の思いを組み合わせて遊びに生かそうとする姿など1学期よりも友達との関わりが増え、成長した姿が多く見られるようになりました。</p> <p>保育参加では、いろいろな子ども達と関わっていただきありがとうございました。ミーティングでは、子ども同士が自分の思いをもって遊ぶことで心の成長に必要な喧嘩が起きたり、折り合いのつけ方を学んだりしているということを多くの保護者の気付きとしていただきました。また、1学期の保育参加と比べながら1つの遊びの中でも一歩ずつ成長している子どもの様子や我が子の成長の早さに驚かれている方もいらっしやいました。日々の遊びの中で子どもたちは新しいことを学び、時には挫折も経験しながら友達や保育者、保護者の方に支えられる中で着実に成長しています。</p> <p>風組でいられるのもあと4か月。星組さんになれるという期待とともにがんばろうという意識が子どもたちに芽生えています。その表れの一例として、やかん当番があります。保育参加がある1週間前のお弁当の時間「私がやかんを運ぶの。今日は、一人で運びたい」や「私も運びたいから一緒にどう？」「一人がいいの！」というやりとりがありました。その日の帰りの会に、保育者が「やかんを一人で持って行きたい人たちがいて困っていたよ」とみんなに伝えると、どうしたらいいかを子どもたちが思い思いに伝え始めました。「やかんは2つあるから2人ずつ運んだらいいんじゃない？」や「順番がいいと思う。」、「じゃあ、ロッカー順番にしたら？」など、友達の困ったことをみんなで考えて、友達が考えた案に対して「いいね」や「こうしたら？」、「僕もそう思う」といった反応を示しながら風組としてのやかん当番の在り方が決まっていきました。どんな場面でもそうですが子どもたちが必要感をもって決めることで、子どもたちの中に意識として定着し向上心や達成感へとつながっていくのだと思います。様々な行事があり、保護者の皆様に支えていただいた2学期だと思っています。ありがとうございました。これからも一緒に子どもたちの成長を見守っていただけたらと思っていますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> 	<p>2学期、星組さんは、友達と相談したり協力したりしながら日々の生活や遊びを楽しんできました。今年度の研究では、遊びの中で子どもたちから生まれる「？」や「！」に注目し、学びのつながりを大切にみえています。年長児として、自分の「いいね！」が“みんなにとっての”それいいね！”になるようにと願い、取り組んでいます。帰りの集まりでは、バレーボール・ケイドロなど、みんなで同じルールのもとに楽しめる遊びも取り入れています。みんなで遊ぶことで、「ルールの共有ができるように」「自分達で遊びを進めることができるように」「いろいろな友達と関わるきっかけが広がるように」ということをねらいとしています。</p> <p>2学期初めはルールをめぐる言い合いになり、自分の都合のいいようにルールを変えたり、自分のしたい遊びに変えようとしていたりする姿が見られました。また周りの子どもたちは、友達がもめていても気にせず遊び続けていることもありました。その都度保育者が入り、状況や気持ちを整理しながら「どうやったらみんなで楽しく遊べるかな？」と問いかけていく中で、子どもたちは次第に“自分勝手に変えたルールでは友達はついてきてくれない”ことに気づき始めました。そして“友達と一緒に遊びたい”という気持ちから「やっぱり入れて」と言ったり、友達に「じゃあ、こうするのは？」と自分の思いを言葉にして相談しようとしていたりする姿が見られるようになりました。</p> <p>ある日、5、6人が輪になって話していたのでそっと耳を傾けると「ごめんね」と声が聞こえてきました。理由を尋ねると「しっぽとりで、転んだ時にA君がしっぽを取ったからそれはなしって話してた」ということでした。「タッチした」「タッチしてない」の言い合いになっていても「僕の話聞いて」と話し方を変えたり、「うん、じゃあ話して」と受け入れていたり、保育者が入らなくても自分達で話し合って解決しようとする姿に大きな成長を感じています。また「先生、困ったことがあるんだけど」と周りの子が気付いて知らせに来る姿も出てきました。今でも「捕まったふりをして牢屋に入っちゃだめなのに入ってる」「牢屋から出るときにすぐ捕まえられるのが嫌だ」「ずっとピッチャーだと点が入らない」など、困った場面は出てきますが、「どうする？」と相談しながら、“それがいいかも”“そうしてみよう”と自分たちなりの解決をみつけています。こうした積み重ねが“みんなのことを考えてのいいね！”につながり、楽しいことがより楽しく膨らんでいくことを感じてほしいなと思っています。</p>  